

長野県革新懇ニュース

2021年5月号
発行日5月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 00510-3-15971

264

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 田島俊雄さんインタビュー
- 2面 1面続き、「近現代信州の歴史回廊」 杉山洋子さん
- 3面 「最大の勝因は市民と野党の共闘の深化」 山口光昭さん
「正念場の日本郵便」 磯野博康 読者の声、漢字パズル
- 4面 雨よ降れ「原稿用紙を買う」 窪島誠一郎さん
写真で辿る信州と戦争 「戦争間際の狂気(4)」 北原高子さん
映画評論『パブリック 図書館の奇跡』 内山到さん

長野県革新懇

検索



エコとゼロカーボンで

魅力ある木島平をめざしたい

たじま としお 田島 俊雄さん

(NPO 法人 太陽と水と緑のプロジェクト代表理事)

木島平の景観と 地域おこしを結合

Q エコヴィレッジ構想のきっかけをお聞かせください。

NPOを結成した時に、当時共同代表であった榎本(現西澤)仁美さんと世界の環境政策とオーガニック事情を把握しに、世界中を見て回りました。その中で、「世界のエコタウン」として知られるドイツのフライブルク市を訪れ、いろいろな英知を集めてさまざまな自然エネルギーを活用する取り組みが行われているのを肌で感じました。市の観光案内所に行くところエコマップというのがあって、世界各地から訪れた皆さんが市内を回ってさまざまな施設や取り組みなどを見学していきます。緑豊かな街中をスト

リートカーが走り、市内の炭酸ガスの排出量も表示された看板など、「こういう市があるんだ」と強く印象に残りました。

木島平村も豊かな自然があり、スキー場や馬曲温泉から下る途中に広がる田園風景は、まるでスイスを思い起こすような景観です。その自然資源を活かせば、本当に良い村になると考えました。フライブルクでは、ごく普通の市民と話をすると、自分の街が進めているのによく知っています。木島平でもコミュニティティアーがしっかりしていて、村民の皆さんが村に誇りをもっている。そういう意味で、「フライブルクと相通じる基盤がここにはある」と確信をもちました。

もう一つは、各地でいろいろな地域おこしの取り組みをやっていますが、一過性のイベントで終わってしまう傾向があり、とても残念だと感じていました。コンサルタントの方がいろいろアイデアを出して、マスコミ受けするようになって、マスコミ受けするのを見ていて、一つのしっかりした理念を掲げて取り組まないと、イベント疲れで終わってしまうと感じ、「木島平村を世界に誇れるエコヴィレッジへ」という構想を掲げたわけです。

持続可能な農業と エネルギーを追求

Q 具体的にはどのような取り組みでしょうか？

私たちがNPOとして初め

にやったことは、オーガニックの農業、今の言葉で言うなら「持続可能な社会」に繋がるような農業です。農業や化学肥料を使わない自然に近い農業をめざしており、これが活動のベースです。木島平村では、「イトミミズの力」を使った「冬期湛水・不耕起農法」を自然耕塾に通いながら取り組みました。また、木島平には豊富な水があるので、それを活かさないかと超小水力発電を試みました。しかし、超小水力発電は、水利権の問題もからみ、地元の理解をえることが不可欠で、技術的にも少し時間がかかりました。で、小規模の太陽光発電を並行して取り組んでいます。

小太陽光発電については、私たちがインドで10年以上現地の農村青年と一緒に作った実績があり、今ではインドが日本に輸出できるような力をつけてきています。その経験を生かして、でき上がったソーラーパネルを買うだけではなく、自分たちで作ったり、村外の方とも一緒になって手作りパネルやLEDランプを作るようなことをやっていける、そんな村になったらいいなと思っています。木島平の冬の仕事にすることも期待できるのではないかと考えています。

村の中で注目される 取り組みに発展

Q 村の皆さんの受け止め方はどうですか？

木島平村で活動を始めて6年ですが、この2、3年、田んぼで作業をしていると「今

年は良くできたね」などと村の人が声をかけてくれるようになりました。村の皆さんは、私たちが朝から晩まで田圃に入って雑草取りをしているのを見ています。また、田んぼの水路に設置した小水力発電で24時間LEDが点灯しているのを見ていくだけで、自然と親近感が湧いてくるのでしよう。そうした中で、私たちのやっていることが村の中で少しずつ受け入れられてきていると思っています。それは大きな変化です。

昨年度は長野県の「元気づくり支援金事業」を受けて、50個のソーラーパネルとLEDのセットの小型太陽光発電を無償貸与しましたが、そのことも大きな変化の一因だと思っています。今までは外から見ていたものが、実際に皆さんの家で点灯し、暗い夜道で外灯が点灯するようになってたわけですから、その効果は大きかったですね。その他にも、例えば私たちの作った小水力発電の水車を見て、かつて水車があった地区で「もういっぺん発電ができる水車をつくり、LEDランプ1個で良いから灯したい」という要望があって、今年度はその実現に向けて動いています。

村の協力を得て カヤの平で新事業

Q 行政の対応とカヤの平の発電事業についてお話しください。

私たちは、言うならば勝手連のような存在です。何かの見返りを求めているわけではありせん。あくまで主人公



田圃横の水路に設置された水車。発電した電気は近くの東屋の照明の電源となっている

はこの村です。村としては、何かをやる以上は責任もあるし、村民が納得いくものでなければなりません。そういう意味では行政としての制約があるのは当然です。だから、「あれは面白いから自分たちもやってみよう」となるようにするのが私たちの役割だと思っています。もちろん村もいろいろな面で協力してくれ、先ほど紹介した長野県の「元気づくり支援金事業」に応募したのも、村長さんが勧めてくれたからです。カヤの平高原の太陽光発電についても私たちの声に応える形で協力してくれています。

カヤの平には、村営施設として総合案内所と高原ロッジという二つの建物があります。この電気は昔、水力発電で賄っていた時期があるのですが、ゴミが詰まったりして、結構トラブルが起きたため、重油に変えた経過があり